

株式会社 九州クボタ化成

1 工場概要

- ▶ 住所 〒820-0062 福岡県飯塚市目尾字境田 515-10
- ▶ 従業員数 36名
- ▶ 敷地面積 14,506m²

2 事業概要

▶ 事業内容

硬質塩化ビニル管の製造・水道用ポリエチレン管の製造・電力ケーブル保護管の製造

▶ 主要製品

水道用 VP管・HI-VP管(耐衝撃性管)・SGR-NA管(ゴムリング受口付)・HI-SGR-NA管
一般用 VP管・HI-VP管・SGR-NA管・HI-VP系 SGR-NA管
無圧用 VU管(薄肉管)
電線用 VE管(電線管)
下水用 SGR-NC管(下水道用)
スーパー・フレックス(電力ケーブル保護管)
V・フレックス(難燃性波付硬質塩化ビニル管)
水道用ポリエチレン管(二層管)

3 工場変遷

昭和55年 (1980)	操業開始 JIS表示工場として認可(JIS K 6741・K 6742・C 8430)
昭和56年 (1981)	日本水道協会の検査工場として認可 日本下水道協会の下水道用機材製造工場として認可
昭和59年 (1984)	日本水道協会の指定検査工場として認可
昭和60年 (1985)	SGR-NA(ゴムリング受口付き管)生産開始
昭和63年 (1988)	ス・パ・ー・フレックス(塩ビ強化可とう管)生産開始
平成 2年 (1990)	V・フレックス(難燃性波付硬質塩化ビニル管)生産開始
平成 4年 (1992)	水道用ポリエチレン管 日本水道協会の指定検査工場として認可
平成 5年 (1993)	水道用ポリエチレン管 JIS表示工場として認可(JIS K 6762)
平成 6年 (1994)	V・フレックス(難燃性波付硬質塩化ビニル管) JIS C 3653(施工方法)管種に認定
平成 8年 (1996)	本社事務所兼厚生棟新築及び工場棟増築竣工
平成11年 (1999)	ISO9002 認証登録(日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -RA -210) HI管(耐衝撃性管)生産開始
平成14年 (2002)	ISO9001 認証 2000年版へ移行 (日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -RA -210)
平成15年 (2003)	ISO14001 認証登録(日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -EG -118)
平成18年 (2006)	ISO14001 認証 2004年版へ移行 (日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -EG -118)

4 環境方針

▶ ISO環境方針

方 針

株式会社九州クボタ化成は、地球環境保全が人類共通の課題であり、企業の責務であることを認識し、環境保全に万全の配慮と不断の努力を行います。

1. 環境マネジメントシステムを継続的に改善することにより、合成管の製造に関する活動において、汚染の予防に努めます。
2. 法的及び当社が同意したその他の要求事項を順守することに努めます。
3. この環境方針を実践するための具体的な目的、目標及び施策を策定し、その実施状況を定期的に評価し、見直しを行うことに努めます。
4. この環境方針を当社の全従業員に周知させると共に、協力会社に対しても環境保全活動に対する参加を要請し、一体となって環境保全に対する意識の向上に努めます。
5. この環境方針は、要求に応じて一般の人も入手することを可能とします。また、地域での環境保全活動への参画、支援に積極的に取り組み、地域との共生に努めます。

平成19年4月1日 代表取締役 社長 下川 清和

▶ ISO認証取得状況

平成11年 (1999)	ISO9002 認証登録(日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -RA -210)
平成14年 (2002)	ISO9001 認証 2000年版へ移行 (日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -RA -210)
平成15年 (2003)	ISO14001 認証登録(日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -EG -118)
平成18年 (2006)	ISO14001 認証 2004年版へ移行 (日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -EG -118)

株式会社 九州クボタ化成

5 目標及び実績

課題	テーマ	管理指標	基準年度	2006年度		
				目標	成果	自己評価
循環型社会の形成	塩ビ産業廃棄物排出量低減(リサイクル分を除く)	排出量	2004	▲ 4%	▲ 19.6%	○
	グリーン購入	購入金額比率	2005	100%	100%	○
	水資源の節約(上水)	使用量原単位	2004	▲ 4%	4.3%	×
地球温暖化防止	温室効果ガス削減	CO ₂ 原単位	2004	▲ 2%	18.3%	×

自己評価の基準 : 目標超過達成 ○ : 目標達成 : 目標一部達成 × : 目標未達成

6 環境会計

環境投資

2006年度: 111万円

環境保全費用

2006年度: 1750万円

環境保全効果

効果の内容	効果	2005年度	2006年度	効果	対前年度比
事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギー使用量(熱換算GJ)	60209	56487	▲ 3722	94%
	水使用量(m ³)	6451	4665	▲ 1786	72%
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	CO ₂ 排出量(t)	2013	2150	137	107%
	PRTR対象物質排出・移動量(t)	0.1	0.1	0	100%
	廃棄物排出量(t)	51.9	53.4	1.5	103%
	廃棄物埋立量(t)	10.1	0.4	▲ 9.7	0.04%

経済効果

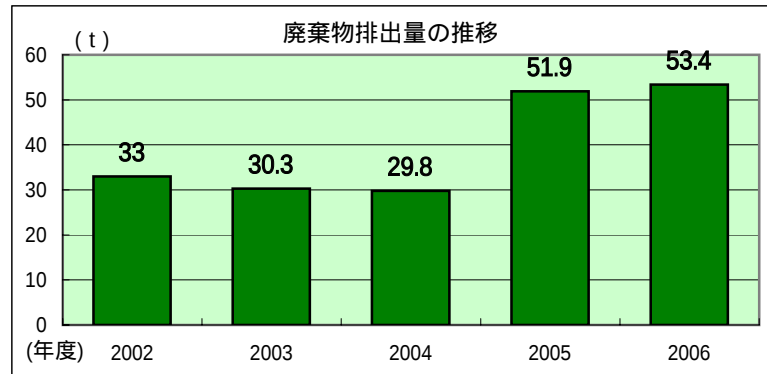
2006年度: 154万円

分類	内容	年間効果
省エネルギー対策	契約電力変更	114 万円
	老朽化水冷チラーを更新(凝縮器はプレート熱交換方式)	40 万円
合計		154 万円

7 環境パフォーマンス

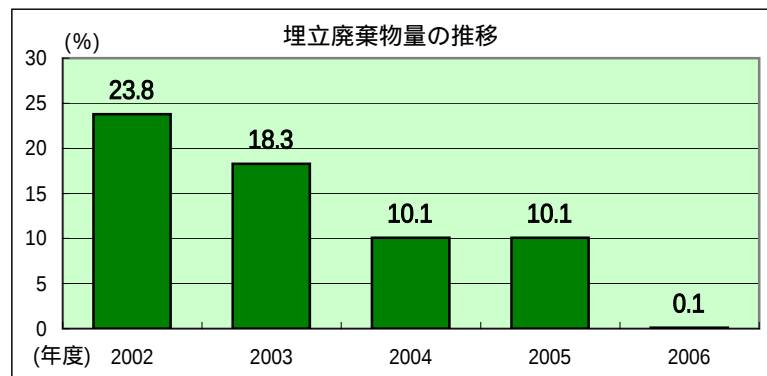
循環型社会の形成

廃棄物排出量の削減



ゼロ・エミッション化

2006年5月より
ゼロエミッションを
継続中です。

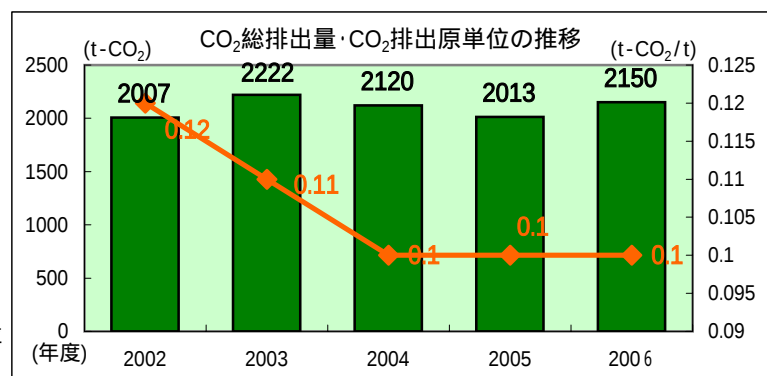


地球温暖化の防止

省エネルギー、 温室効果ガスの削減

契約電力変更、老朽水冷
チラー更新、高効率モータ
採用、押出機吐出量アップ
等により、CO₂排出原単位
を削減。

◆ CO₂排出原単位
■ CO₂総排出量



株式会社 九州クボタ化成

有害化学物質の削減

VOC大気排出量の削減

該当設備はありません

PRTR法対象物質の排出量・移動量

政令No.	物質名称	排出量				移動量	
		大気	公共用水域	土壌	自社埋立	下水道	場外移動
176	有機スズ化合物						40
230	鉛及びその化合物						96

8 環境コミュニケーション

地域美化活動

名 称 地域工業会での清掃活動

日 付 毎月第一週の金曜日

参加人数 1名



地域工業会での清掃活動

9 サイトデータ

▶ INPUT

項目	単位	使用量	熱量換算GJ
エネルギー	電気	万kWh	585.9
	石炭コークス	t	0.0
	都市ガス	千m ³	0.0
	灯油	kl	0.0
	軽油	kl	1.0
	重油	kl	0.0
	LPG	t	0.1
	揮発油	kl	2.1
合計			56,495.3

水使用量	万m ³	0.467
------	-----------------	-------

▶ OUTPUT

CO ₂ 排出量	t-CO ₂	2150
---------------------	-------------------	------

排水口名	放流先	項目	単位	排水口名	
				規制値	測定値
排水	公共用水域	pH	-	—	—
		BOD	mg/l	—	—
		COD	mg/l	—	—
		窒素	mg/l	—	—
		りん	mg/l	—	—
		六価クロム	mg/l	—	—
		鉛	mg/l	—	—
		COD総量規制値	kg/日	—	—
		窒素総量規制値	kg/日	—	—
		りん総量規制値	kg/日	—	—
	下水道	pH	-	特定施設なし	
		BOD	mg/l	—	—
		COD	mg/l	—	—
		SS	mg/l	—	—

廃棄物排出量	t	53.4
再資源化率	%	98.0